

平成 30 年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

大阪市立市岡東中学校

平成 31 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○全国学力・学習状況調査、大阪市統一テストの結果から、各教科ばらつきはあるものの、全体として「読む」「記述」「表現」の項目ができていない。活字をしっかりと読み解き、考えたことを自分で表現できる言語能力の育成が必要である。そのために、教科指導だけではなく、学校図書館も最大限に活用し、学力の基礎となる読解力を向上させるため、読書活動を推進していく必要がある。

○学習に対する意欲、積極性に欠け、現状の学力に甘んじている生徒が多い。

○ほとんどの生徒は、規律のある学校生活を送っているが、ほんの数名が問題行動をくる返し規律を乱している。関係諸機関との連携とより粘り強い指導でからうじて秩序を維持できている。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○平成 32 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100% にする。

○平成 32 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 75% 以上にする。

○平成 32 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を平成 29 年度末の校内調査より減少させる。

○平成 32 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を平成 29 年度末の校内調査より減少させる。

○平成 32 年度末の校内調査における「学校での生活が楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 75% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○平成 33 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、平成 28 年度より向上させる。

（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと）

○平成 33 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 4 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 3 ポイント減少させる。

○平成 33 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 7 割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 3 ポイント増加させる。

○平成 32 年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、平成 28 年度より増加させる。

○平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルラン、50m走、立ち幅とびの平均の記録の合計を、平成 28 年度より 3 ポイント向上させる。

○学力の基礎となる読解力を向上させるため、読書活動を推進し、図書室を週 8 回以上開館する。

○平成 32 年度末の校内調査における「授業の内容がよく理解できる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 75% 以上にする。

○平成 32 年度末の校内調査における「家庭学習を習慣的に行っている」の項目について、「当てはまっている（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 75% 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。
- 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルラン、50m走、立ち幅とびの平均の記録の合計を、前年度より3ポイント向上させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にするについては 8 件中 1 件解消できず、87.5% であり達成できなかった。
- 平成 30 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 70% 以上にするについては、1 年生 98.6%、2 年生 93.1%、3 年生 95.1%、全体で 95.6% で達成できた。
- 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させるについては、平成 29 年度 5 名から平成 30 年度 3 名に減少し、一部の生徒に課題はあるものの減少傾向にあり達成できた。
- 平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させるについては平成 29 年度 6 名から平成 30 年度 1 名と達成できた。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させるについては、
3 年生：5 教科 86.9→86.9（変化なし）達成せず。3 教科 89.1→88.4（0.7 減少）達成せず。
2 年生：92.7→96.2（3.5 増加）達成。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント減少させるについては、
3 年生：29.0→33.7（4.7 増加）達成せず。
2 年生：24.0→19.2（4.8 減少）達成。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント増加させる。
3 年生：17.2→16.9（0.3 減少）達成せず。
2 年生：13.3→27.4（14.1 増加）達成。
- 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させるについては、前年度 69.5% から今年度 79.2% へと増加し、達成できた。
- 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルラン、50m走、立ち幅とびの平均の記録の合計を、前年度より 3 ポイント向上させるについては、
男子 女子
20m シャトルラン：68.76→77.64（8.88 回増） 、 54.65→52.06（2.59 回減）
50m 走 : 8.37→7.94（0.43 秒速） 、 8.89→8.58（0.31 秒速）
立ち幅とび : 171.88→186.22（14.34 cm 増） 、 158.48→170.16（11.68 cm 増）
と男女 6 種目中 5 種目で記録が向上した。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。</p> <p>○校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 70% 以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活のさまざまな場面を通じて、人間尊重の精神を培う。 ・各学年とも、道徳の副読本や『私たちの道徳』を積極的に活用し、実践を記録する。 ・1年に一度、全学年で道徳の公開授業を行う。 <p>指標 各学年とも道徳の副読本や『私たちの道徳』を積極的に活用し、実践記録する。なお、1年に一度、全学年で道徳の公開授業を行う。</p>	C
<p>取組内容②【施策2 特別支援教育】</p> <p>個に応じた指導・支援のあり方を工夫する。</p> <p>指標 個別の指導計画の作成をする。</p>	B
<p>取組内容③【施策2 基本的な生活習慣の確立】</p> <p>時間励行・挨拶の習慣付け、正しい言葉遣い、正しい服装の指導をおこなう。</p> <p>指標 学校アンケートで、服装や時間を守るなどのルールを守っていると答える生徒の割合を1回目より2回目を向上させる。</p>	B
<p>取組内容④【施策2 規範意識の育成】</p> <p>校則と集団生活でのマナーを習得させる。</p> <p>指標 学校アンケートで、学校の決まりを守っていると答える生徒の割合を 80% 以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策2 生活指導上の課題への対応（生徒理解）】</p> <p>家庭訪問、教育相談を中心に、生徒個々の実態を把握し、生徒理解を深める。</p> <p>指標 学校アンケートで、困ったときに相談できる先生がいると答える生徒の割合を1回目より2回目で向上させる。</p>	B

取組内容⑥【施策1 生活指導上の課題への対応（不登校問題）】 スクールカウンセラーと連携し、当該生徒個々の実態に応じた対策を講じる。 指標 平成30年度末の行内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。	B
取組内容⑦【施策1 安全教育】 地震、津波、火災等を想定した避難訓練を実施する。 指標 避難訓練を年間2回実施する。	B
取組内容⑧【施策2 健康な生活習慣】 保健委員会活動や保健指導を通し、生徒の健康意識を高める。 指標 アンケートで規則正しい生活をしていると答える生徒の割合を1回目より2回目で向上させる。	B
取組内容⑨【施策2 性教育】 年間指導計画の元、各学年の現状に沿った指導を実施する。 指標 各学年で1回性教育を実施する。	B
取組内容⑩【施策1 環境整備】 整美委員会活動や、定期的な点検により、校内美化の意識を高める。 指標 アンケートで学校の清掃が行き届いていると答える生徒の割合を80%以上とする。	B
取組内容⑪【施策1 研修計画】 全体研修を計画し、全職員が参加できる体制をつくる。経験の少ない教員のための自主研修会を企画、実践する。 指標 生徒の安心安全にかかわる研修会を年間1回実施する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>全市共通目標</p> <p>○平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にするについては8件中1件解消できず、87.5%であり達成できなかった。</p> <p>○平成30年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にするについては、1年生98.6%、2年生93.1%、3年生95.1%で達成できた。</p> <p>○平成30年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させるについては、平成29年度5名から平成30年度3名に減少し、一部の生徒に課題はあるものの減少傾向にあり達成できた。</p> <p>○平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させるについては平成29年度6名から平成30年度1名と達成できた。</p> <p>【取組内容】について</p> <p>①道徳の副読本や『私たちの道徳』を活用し、読み物教材を使用して行い、ワークシートとして記録を残した。相互授業見学週間（フリー参観）やその他の場面で行った。</p> <p>②年2回の巡回相談を行い、生徒の特性を共通理解した。</p> <p>③全校集会、学年集会、登校指導をはじめ日々の生活のなかで積極的に指導を行った。</p> <p>④集会や学活、日々の学校生活の中で思いやりの気持ちを育む指導を実施している。</p> <p>⑤必要に応じて家庭訪問を行い、会議にて生徒実態の情報交換を行った。</p> <p>⑥不登校生徒への家庭訪問や保護者との連絡を密にとり、個別に配慮が必要な生徒に対して別室での対応をするなど、改善が見られた。</p> <p>⑦1学期に1回実施し、2学期に2回目を行い、集会等でも防災について呼びかけを行った。</p>	

- ⑧文化発表会では階段アート、毎月の生徒委員会ではポスターなどを制作し全体へ啓発を行った。また今年は朝の校門で呼びかけをすることで健康意識を高める効果を図った。
- ⑨1年生は生命誕生、2年生は男女交際・L G B T、3年生はA I D S・性感染症について3学期に実施する予定である。
- ⑩全体として清掃活動はきちんとできている。整美委員は定期点検や美化週間の実施など校内の美化意識を向上させる努力をした。
- ⑪生徒の安心安全にかかる研修会として1学期に職員対象のAED研修を実施した。今年度、PC教室のPC更新の為、PC操作研修を3月に実施する。

次年度への改善点

【目標設定】について

- いじめ・問題行動の未然防止、早期発見をするために、いじめアンケートを学期毎に実施した。学校で認知したいじめや問題行動について、100%解決に向けて対応した。対応したが、学校で認知したいじめについて8件中1件は解消できていない。解消に向け継続して対応していく。
- 校内調査で「悩みがある時に、困った時に相談できる先生はいますか」に関して、1年生81.6%、2年生79.1%、3年生85.0%であった。来年度も継続していじめに対する取り組みを行い、未然防止、早期発見をするために相談しやすい環境作りを進める。また、問題行動、暴力行為の防止に向けての取り組みを重点的に行う。
- ここ数年の重大な課題の1つであった問題行動、暴力行為は一部の生徒に課題はあるものの減少傾向にある。暴力行為を複数回行う加害生徒数は平成29年度5名から平成30年度3名に減少した。
- 「学校での生活が楽しい」の項目について肯定的に答えた生徒の割合は、平成28年度は1年生73.3%、2年生62.3%、3年生65.5%、平成29年度は1年生93.4%、2年生78.6%、3年生81.7%であった。今年度は1年生84.6%、2年生78.7%、3年生84.1%であり、昨年度と同一集団で比べると、2年生で14.7%減少、3年生で2.4%増加となっている。3年生は1年生の時と比べ、10.8%学校での生活が楽しいと肯定的に答えた生徒の割合が増加した。今後も学校での生活が楽しいと肯定的に答える生徒の割合を増加させ、生徒が安心して過ごせる学校を作っていく。

【取組内容】について

- ①読み物教材を使用した授業で、今後研究授業や振り返りを行う時間を設け、さらに道徳教育への全体での共有を図る。
- ②生徒の特性把握について、職員全体での理解をさらに深める。
- ③アンケートの中で「はい」と答えられる生徒を増やす。
- ④集団意識を高め、自ら進んで行動できる生徒を育成する。
- ⑤日々の生活の中で生徒の変化に気づきを持てるよう、関わりを持ち理解を深める。
- ⑥安心して登校できる環境整備に努める。
- ⑦防災意識を高め、避難訓練と防災知識を身につける。
- ⑧「かぜに負けるな！生活アンケート」で10項目中7項目以上できている生徒が、2回目のアンケートで約3%向上した。アンケートの中でなかなか改善されないのが「睡眠時間」であり、今後の課題である。
- ⑨今年度はL G B TについてDVDを使用した。実施時期と時間の確保を学年としっかりと検討すべきである。また時代に即した教材の精選も必要であると感じた。
- ⑩学級数と清掃場所のバランスが悪いので、清掃内容や場所の精選が必要である。
- ⑪AED研修を軸に、経験の少ない教員にとって有用な研修案を企画する。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。</p> <p>○校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルラン、50m走、立ち幅とびの平均の記録の合計を、前年度より3ポイント向上させる。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 よくわかる授業の実施】</p> <p>教科の特性を活かし、よくわかる授業を積極的に行う。</p> <p>指標 学校アンケートで授業がよくわかると答える生徒の割合を1回目より2回目を向上させる。</p>	B
<p>取組内容②【施策5 授業展開の工夫】</p> <p>ICTの活用やアクティブラーニングを実施するなどにより、生徒が主体的に学習する授業を展開する。</p> <p>指標 学校アンケートで学習に積極的に参加していると答える生徒の割合を1回目より2回目を向上させる。</p>	C
<p>取組内容③【施策8 授業研究】</p> <p>年間を通して、校内研究授業（研究討議を含む）を行い、授業力の向上に取り組む。</p> <p>指標 年間を通じ、校内研究授業を1人1回実施する。</p>	B
<p>取組内容④【施策8 教育課程】</p> <p>新学習指導要領を見据えた教育課程の編成を進める。</p> <p>指標 シラバスを作成する。</p>	C
<p>取組内容⑤【施策5 特別活動】</p> <p>さまざまな体験学習や鑑賞などを実施し、豊かな感性を育てる</p> <p>指標 アンケートで行事は楽しみであると答える生徒の割合を80%以上にする。</p>	B

取組内容⑥【施策7 食育】 食生活の見直しや食生活への関心を高め、食生活の自己管理を促す。 指標 アンケートで朝食を食べていますかと答える生徒の割合を1回目より2回目で向上させる。	B
取組内容⑦【施策5 図書館の活性化】 学校図書館の活性化を図り、読書活動を推進する。 指標 図書館の開館を週8回以上行う。	B
取組内容⑧【施策5 地域人材の活用】 学校元気アップ事業を活用し、自主学習会を実施する。 指標 定期テスト前自主学習会や、放課後自主学習会で、平均週2回以上実施する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>全市共通目標</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させるについては、 3年生：5教科 86.9→86.9（変化なし）達成せず。3教科 89.1→88.4（0.7減少）達成せず。 2年生：92.7→96.2（3.5増加）達成。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させるについては、 3年生：29.0→33.7（4.7増加）達成せず。 2年生：24.0→19.2（4.8減少）達成。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。 3年生：17.2→16.9（0.3減少）達成せず。3教科 89.1→88.4（0.7減少）達成せず。 2年生：13.3→27.4（14.1増加）達成。</p> <p>○校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させるについては、前年度 69.5%から今年度 79.2%へと増加し、達成できた。</p> <p>○平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルラン、50m走、立ち幅とびの平均の記録の合計を、前年度より3ポイント向上させるについては、 男子 20mシャトルラン：68.76→77.64（8.88回増） 50m走：8.37→7.94（0.43秒速） 立ち幅とび：171.88→186.22（14.34cm増） 女子 、54.65→52.06（2.59回減） 、8.89→8.58（0.31秒速） 、158.48→170.16（11.68cm増） と男女6種目中5種目で記録が向上した。</p>	
<p>【取組内容】について</p> <p>①ICT機器を活用した視覚的学習、小テストなどの反復学習、少人数での習熟度別学習など各教科でよくわかる授業展開を積極的に実施した。アンケートについて、「授業の内容が理解できていますか」の設問でも第1回78%に対して第2回91%と上回っている。</p> <p>②教員のICT機器の活用は増えているが、積極的に参加する動機に結びつかなかったのか効果はあまり発揮できなかった。グループワークも積極的に取り入れたが、アンケート結果は第1回89%に対し第2回76%と下回った。ICT機器の活用含め、技術の向上が課題である。</p> <p>③校内すべての教員が1回以上の研究授業を行うことができた。また、研究討議の時間を確保することで、授業力の向上につながった</p> <p>④各教科のシラバスは作成準備中である。</p>	

- ⑤1月に音楽をテーマとした芸術鑑賞を実施した。学校アンケートについても「行事は楽しみですか」の項について、2回とも楽しみであるという回答が80%以上に達した。
- ⑥食育通信の配布や食材紹介のポスター・献立詳細のプリントなどの掲示を行った。アンケートでは「朝食を毎日食べている」と答えた生徒は1回目が75.7%、2回目が79.2%で約3.5%上昇した。また「昼食を残さず食べる」「残さないようにしている」と答えた生徒は1回目が94.4%、2回目が98.9%で約4.5%上昇した。
- ⑦週5回休みの図書館の開館、週3回以上の放課後の開館を行い図書活動の活性化を行った。また、視聴覚委員との連携で、未返却本の回収にも努めた。
- ⑧定期学習会、テスト前、夏休み中など学校元気アップ事業と連携して学習会を実施した。開催数についてもテスト前や夏休み中など集中的に実施した面はあるが、平均2回以上は実施できた。

次年度への改善点

【目標設定】について

- 学力の向上については、文章を最後まで読む力や表現する力に大きな課題がある。今後に向けて、基礎・基本を押さえながら興味・関心を高めることのできる教材に取り組むことなど授業改善を行う。また、記述式の解答に弱い部分があるため、繰り返し演習を重ねながら、思考力・判断力・表現力を高める工夫を進めていく。
- 放課後の時間の使い方に課題があり、「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の否定的な回答が全国で47.8%に対して本校では66.7%と1.4倍、「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(塾・家庭教師含む)」の全くしないとの回答が全国4.9%に対して本校では13.3%と2.7倍、「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の全くしないとの回答が全国32.9%に対して本校では60%となっている。学校以外で勉強しない、全く読書をしない生徒が多いことが課題として明らかになった。習熟度別少人数授業を更に充実させ、基礎的、基本的な内容の確実な定着とわかるなどを実感させ、質問しやすい教育環境を整備する。そして、わかることが実感できる授業を家庭学習の定着への原動力にしたい。
- 体力の向上については、男女ともに50m走、ハンドボール投げで大阪市平均、全国平均を上回った。特に、女子のハンドボール投げは全国平均を2.24mも上回った。女子ではこの他にも握力で大阪市平均、全国平均を上回り、立ち幅とびで大阪市平均は上回ったが全国平均ではわずかに下回った。その他の種目では、男女ともに大阪市平均、全国平均を下回った。特に、反復横とびや20mシャトルランといった体力が必要とされる種目や上体起こしや長座体前屈といった柔軟性が必要な種目に課題がある。
- 健康には運動、食事、睡眠が大切だと考えている生徒は全国平均よりも高いが、男子で運動が嫌いと回答した生徒が10.8%と全国平均のおよそ3倍、朝食を食べない日が多い生徒が11%と全国平均のおよそ2倍となっている。睡眠時間に関しては、全国平均、大阪市平均よりも長くとれている生徒が多い。今後に向けて、男子の50m走、ハンドボール投げ、および、女子の50m走、ハンドボール投げ、握力で大阪市平均、全国平均を上回っているので今後もこれらを維持していきたい。男女ともに柔軟性を高め、体力を向上させるために授業の開始時にランニング、体操、筋力トレーニングを取り入れている。しかし、反復横とびや20mシャトルランといった体力が必要とされる種目や上体起こしや長座体前屈といった柔軟性が必要な種目に課題があるので、授業内での運動量の増加や強度を工夫する必要がある。

【取組内容】について

- ①教科間で意見交換を活発に行い、効果がみられるものを積極的に取り入れるようにする。またプロジェクタを各教室に常設したことにより、ICT機器の活用も検討する。

- ② ICT 機器の活用を教員だけでなく、生徒もタブレット機器を使うなど、積極的に活用する。
合わせて調べ学習など自発的な取り組みを検討する。
- ③ 取り組み日程の検討及び、より活発に意見交換ができるような研究討議の方法の検討を行う。
- ④ 年度末にシラバスについての見直しと、授業時数の確保しやすいようにカリキュラムマネジメントを見直して改善点を検討する。
- ⑤ 次年度のテーマに沿った取り組みの情報収集と、今後の検討課題を模索していく。
- ⑥ 食生活の自己管理を促すべく、継続してアンケートを実施する。
- ⑦ さらなる図書活動の活性化を行うとともに、未返却本の回収、減少を進めていく。
- ⑧ 教職員が行っている自主学習会と学校元気アップ事業とのタイアップを模索する。

年度目標に向けた各教科の取り組み

①【国語科】

- ・基本的学習習慣、家庭学習習慣の定着のために、漢字テスト、小テストを実施する。
- ・定期テストの作文問題出題、小論文指導等を通じて、書く力を向上する。

②【社会科】

- ・生徒の興味・関心を高める授業や教材を工夫するとともに、基礎、基本の定着を図る。
- ・グループによる協同学習に取り組み「主体的で、対話的で深い学び」の実現を目指す。

③【数学科】

- 生徒にあった自主教材を作成することによって、基礎力を向上させる。

④【理科】

- 身近なものから自然科学に興味を持たせ、自然の事物や現象について理解を深めさせる。また、プリント等の補助教材を使って、基礎学力の定着に努める。

⑤【英語科】

- 教科書内容理解を4領域(読む・聞く・話す・書く)の活動を通して行い、英語でのコミュニケーション能力の基礎を養う

⑥【音楽科】

- 生涯教育の始点として基礎の徹底を図る。

⑦【美術科】

- 美術の鑑賞を通し視点を拡げ、基礎的な技能の育成を図る。

⑧【保健体育科】

- ・集団行動を通して、規律ある集団の育成を図る。
- ・基礎体力の向上・定着を図る。

⑨【技術・家庭科】

- ・基礎、基本の定着
- ・実習活動を総時間の30%以上を目指す。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析、今後への改善点

- 漢字テストおよび小テストを行い、基本的学習習慣、家庭学習習慣の定着に努めた。「書く力」の向上では、各学年とも作文などの課題を設定し、向上に努めた。3年生では統一テストの「書く能力」の領域で市の平均を上回るなどの成果も見られた。
今後も継続して小テストを行い、学習習慣の定着に努めるとともに、「書く力」の向上に努めていく。
- 授業プリントや資料プリントを使用し、基礎・基本の定着に努めた。課題を設定してのグループ学習にも取り組んだが、単元の見直し等、まだまだ取り組む時間を増やすことができると思う。
- 自主教材による学習で、基礎学力の向上はできたと思う。例えば3年生では昨年のチャレンジテストの正答率41%から54.9%に上げることができた。またT.Tについても教師間で連携を行いながら生徒にあった支援を行っている。また継続的に補習を行い、基礎学力の定着に努めた。また発展的な問題にも不定期的に取り組み、全体の学力向上をはかった。
- 実験・観察等を通して、少しでも興味・関心を高められ、理解も深まったと思う。また、小テストや宿題で基礎学力の定着に努めた。しかしながら、まだまだ不十分な生徒もいるので、放課後学習会などを通して定着に努めたい。
- バランスよく4領域の活動を行うことができた。また、C-netの活用などをし、積極的にコミュニケーションを行う素地を培ったことができた。
- 3年生の授業アンケートを学年末テスト時に取ったが、当日87人中80人が「音楽の授業は楽しかった」と肯定的に答えた。(内、5人は無回答、2人は文章が途中)

- ⑦ 日本美術を全体的に扱うことで、日本文化や歴史まで視点を広げることができた。筆に限らず、様々な道具を扱うことで基本的な技能の育成につながった。
- ⑧ ペア学習やグループ学習を取り入れたり、ウォーミングアップの内容を工夫したりして、基礎体力の向上・定着を図った。集団行動に重きを置き、ほとんどの生徒が周りを意識して行動できるようになった。
- ⑨ 基礎基本の定着のため、プリント学習・小テスト・実技テストを実施した。実習活動はどの学年も30%を超えることができた。

年度目標に向けた各学年の取り組み

①【1年】

- 自主性を高め、規律を守る集団の育成
- 互いに認め合い、協同できる集団の育成
- 学力の向上

②【2年】

- 日々の教育活動において組織的に取り組み、規律を重んじ、社会性を身につけた集団育成を行う。
- 生活指導上の問題や、全員に紹介するべき良い事象が起こった時に、学年集会を開き追体験をさせることによって、集団を良い方向に導く。
- 校内秩序を壊さぬよう、生徒は生徒として過ごし、普段の学校生活や行事を通して、自ら学び、自ら考え、自ら行動する集団育成を図る。

③【3年】

- けじめをつける
- 規律、時間を守る
- お互いの事を思いやる集団をつくる

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析、今後への改善点

①【1年】

- 集団生活の中で守るべきルールの徹底を日々の生活の中だけでなく、学年集会、学級活動、行事を通じて行った。規律を守れない事案が起こった時には全体で共有し、良い状態が継続して意識できるよう学級代表に学級で報告をさせる機会をこまめに設けた。学代や班長が自ら的集団の規律を考えられるよう班長会議を行った。
- 相手の気持ちを想像し、相手を思いやる言葉や行動ができるよう道徳の様々な教材を通して、繰り返し考える機会を設けた。また生徒の意見を学年便りに掲載することで思いの共有を図った。行事ごとに班新聞の制作・発表を行ない、班員で活動する機会を多く持ち、お互いに協力する関係を築く機会とした。
- 学力の向上のため、授業を大切にすること、そのためにまずチャイム着席の徹底を行った。1、2学期は守れない生徒が多かったが、学代や班長の声掛けや協力のおかげで3学期にはチャイム着席を習慣化することができた。それと共に学習意欲も向上したが、放課後の学習会などの補充学習については、回数を増やすことができなかった。

②【2年】

- 生徒に対し、服装や言葉使い、時間を守る、授業は集中し真面目に取り組むなど、基本的な事柄を、日々細かく指導した。服装や言葉使い、授業態度などは、1年次より改善された。
- 大きな問題が起こった場合にはすぐに学年集会をひらき、全体化し、共有することで、再発を防止し、危機意識の向上に努めた。
- 集団で学校生活を送っているということを再確認させ、個のわがままを校内に持ち込ませない指導を行う。また、自立を促すような指導（学級活動や学年の取り組みにおける生徒主体の運営、教師が口や手を出しすぎないなど）が必要である。

③【3年】

- 3年間を通して、ダメなものはダメ。良いものは良いということを、教師集団でぶれなく生徒たちに伝えてこられたと思う。なので、入学時の感覚ではばれなければ、怒られなければ何をしてもよいという感覚があった44期生であるが、今は学年集会などで話をすれば、理解し改善できるようになってきたと思う。

○規律については前に述べたように入学時の感覚よりは改善されたと思える。学年の中には自分たちがしっかりすることで、学校 자체がよくなってくるという誇りも持てていると思う。時間については5分前行動のようなことまではさせきれていない。

○3年間の道徳や平和学習などで確実に培われてきたと思う。特に平和学習では1年時よりの学習が実を結び、沖縄修学旅行、それを受けた文化発表会での舞台発表につながり、44期生の子たちの中でただ戦争反対ということではなく、自分で判断する材料を提示できたと思う。あとは一緒に生活してきた支援学級の仲間とどんな関係を築いて行くかが卒業までの課題である。